

福祉事業は誰かがやって  
くれると思っていました

「『登別ライフケアを考える会』を設立したときは、登別市社会福祉協議会内の机一つを借りてのスタートでした。このため、1年後にアパートの一室を借りて独立するまでは、行政の下部組織と思われ、市民組織とわかってもらえずに苦労しました」と話す星川さん。星川さんが福祉事業を始めるきっかけになったのは、平成5年に参加した市の国内派遣研修。それまでも、社会福祉協議会のボランティアで在宅の方の衣服の着脱や食事の介護、話し相手などをしていましたが、研修を通して福祉への思いを強くしたといいます。

「福祉事業は誰かがやってくれると思っていたんですね。でも、自分が将来、年を取ったときに不安だなと感じ、これではいけないと友人にも声を掛け、会を設立しました」と当時を振り返ります。

全国に助け合いの輪を  
広めていきたい

平成11年、介護保険事業参入のため、胆振管内では初めてとなるNPO法人の認証を受けた『いぶりたすけ愛』。今では、訪問介護などの介護保険事業のほか、カラオケや囲碁、ちぎり絵などを通し



サロンで利用者の皆さんとふれ合う星川さん（左から3人目）

て高齢者同士が交流するサロンの開放、外出支援、子育て支援など、さまざまな事業を展開しています。市民相互扶助の考えのもと、誰もがサービスを受けたり、提供したりできるのが特徴です。

来年には、新しい暮らしの提案をと、定員9人のバリアフリー住宅『高齢者生きがいグループホーム』が完成の予定で、「高齢者が地域で安心して自分らしく暮らせる拠点になればうれしいですね」と今から準備に余念がありません。

「一人の力はささやかですが、みんなが力を合わせると大きな力になります。『お仕着せでない、施さない、お金もうけでない』が合言葉。全国に助け合いの輪を広げていきたいですね」と笑顔で話す星川さん。

誰もが暮らしやすい、心豊かな福祉社会の構築を目指しています。



KIRARI

ほしかわみつこ  
星川光子さん（新川町）

さまざまな福祉活動などを行うNPO法人『いぶりたすけ愛』の理事長を務める星川光子さん。1月には『北海道男女平等参画チャレンジ賞』、さらに6月には『平成17年度内閣官房長官表彰・女性のチャレンジ賞』を受賞しました。

星川さんに受賞の喜びや福祉活動への思いを聞きました。

誰もが暮らしやすい、  
心豊かな福祉社会の  
構築を



昭和26年、上川郡美瑛町生まれ。54歳。  
平成2年から福祉ボランティア活動に携わる。平成7年、『登別ライフケアを考える会』を設立し、平成9年に『いぶりたすけ愛』と名称変更。平成11年には、胆振管内第1号のNPO法人認証を受ける。